

# 宮崎県文化財調査報告書

第 32 集

平成元年3月

宮崎県教育委員会

(追加) 昭和62・63年度 埋蔵文化財発掘調査一覧

遺跡名	所在地	調査日	調査主体	調査員	遺構、遺物
唐人町	串間市大字 西方字唐人 町	昭63.10.17 平元.1.31	県教育委	面高哲郎 吉本正典	住居跡、柱穴 陶文土器、弥生土器 土師器、青磁、白磁 軽石加工品、炭化木

# 宮崎県文化財調査報告書

第 32 集

平成元年3月

宮崎県教育委員会

## 序

宮崎県教育委員会においては、文化財の保護および文化財指定のための調査や、農耕・開発工事等によって発見された遺跡の緊急発掘調査の報告を毎年刊行して文化財に対する理解を願っているところであります。

このたびは、その第32集の刊行であり昭和59・60年度調査の新富町鬼付女西遺跡のほか、宮崎県教育委員会が本年度調査を実施した二遺跡についてその調査概要を集録しています。

本書が社会教育・学校教育の場において広く活用され、あわせて学術研究上の資料として役立つことを期待いたします。

なお、調査に際して御協力いただいた地元の方々、および市町村教育委員会の方々に深甚の謝意を表します。

平成元年3月

宮崎県教育委員会

教育長 児玉郁夫

## 例　　言

- この報告書は、宮崎県教育委員会が主体となって実施した埋蔵文化財発掘調査の一部を集録したものである。
- 掲載している遺跡名・所在・調査期日・執筆者は下記のとおりである。
- 本報告書の編集は宮崎県教育庁文化課がおこなった。

## 記

項目 件	遺跡名	所在地	調査期日	調査担当	執筆者
1	鬼付女西遺跡 B地区	新富町	昭和59年10月11日 ～11月30日	永友良典 長津宗重 日高孝治	永友良典 長津宗重
2	鬼付女西遺跡 A地区(二次)	新富町	昭和60年8月19日 ～9月9日	近藤協	近藤協
3	天神河内第1 遺跡	田野町	昭和63年8月9日 平成元年3月10日	谷口武範	谷口武範
4	森ヶ城遺跡	日南市	昭和63年6月6日 ～7月23日	吉本正典	吉本正典

## 総　　目　　次

- 鬼付女西遺跡B地区発掘調査報告.....5
- 鬼付女西遺跡A地区一二次一発掘調査報告.....22
- 天神河内第1遺跡発掘調査概要調査報告.....33
- 森ヶ城遺跡発掘調査概要調査報告.....34
- 付1. 昭和62・63年度埋蔵文化財発掘調査一覧.....35
- 付2. 昭和63年度発行宮崎県市町村発行埋蔵文化財報告書一覧.....41

KI ZUKU ME NISHI  
鬼付女西遺跡

(B地区・A地区 - 二次 - )

## 例　　言

1. 本報告は、鬼付女川河川改修工事に伴い  
昭和59年10月11日から同11月30日および昭  
和60年8月19日から同9月9日に児湯郡新  
富町大字上富田字鬼付女において県教育委  
員会が実施した鬼付女西遺跡B地区および  
A地区2次調査の発掘調査報告書である。
2. 本書の執筆・編集は県教育庁文化課主任  
主事永友良典、同長津宗重、同近藤協が行  
った。
3. 樹種の同定については、宮崎大学農学部  
大塚 誠 氏に依頼し玉稿をいただいた。
4. 出上品は埋蔵文化財センターで保管して  
いる。

## 本文目次

第Ⅰ章 序説.....	(永 友) .....	1
第1節 遺跡の位置と環境.....	1	
第2節 調査の経過.....	3	
第Ⅱ章 鬼付女西遺跡B地区の調査.....	(長 津) .....	5
第1節 調査区の設定と概要.....	5	
第2節 包含層の状態.....	5	
第3節 遺構と遺物.....	6	
第4節 まとめ.....	17	
第Ⅲ章 鬼付女西遺跡A地区—2次調査—.....	(近 藤) .....	22
第1節 調査区と周辺の地勢.....	22	
第2節 遺構.....	23	
第3節 遺物.....	25	
第4節 まとめ.....	28	
第Ⅳ章 鬼付女西遺跡A地区出土板材の樹種について.....	31	

## 挿図目次

第1図 位臵図.....	1
第2図 地形図.....	2
第3図 第1トレンチ延長部北壁土層断面図.....	5
第4図 鬼付女西遺跡B地区遺構分布図.....	7～8
第5図 1・2号住居実測図.....	9
第6図 1号周溝状遺構実測図.....	10
第7図 弥生土器実測図(Ⅰ) .....	12
第8図 弥生土器実測図(Ⅱ) .....	13
第9図 弥生土器実測図(Ⅲ) .....	14

第10図 土師器実測図	14
A地区－2次調査－	
第1図 発掘区・遺構図	22
第2図 土層断面図	23
第3図 溝状遺構断面図	23
第4図 木桶断面・土層断面図	23
第5図 木桶（底板）実測図	24
第6図 木桶復元図（一組）	24
第7図 鉄釘実測図	24
第8図 土師器実測図	25
第9図 遺物実測図	26

## 表 目 次

表1. 鬼付女西遺跡および園田遺跡発掘調査一覧	4
表2. 弥生土器観察表（I）	15
表3. 弥生土器観察表（II）	16

## 図 版 目 次

### B地区

図版1 鬼付女西遺跡B地区全景（北から）・1・2号住居	19
図版2 1号住居土器出土状況・1号周溝状遺構（北から）	20
図版3 1号掘立柱建物・トレンチ土層断面	21

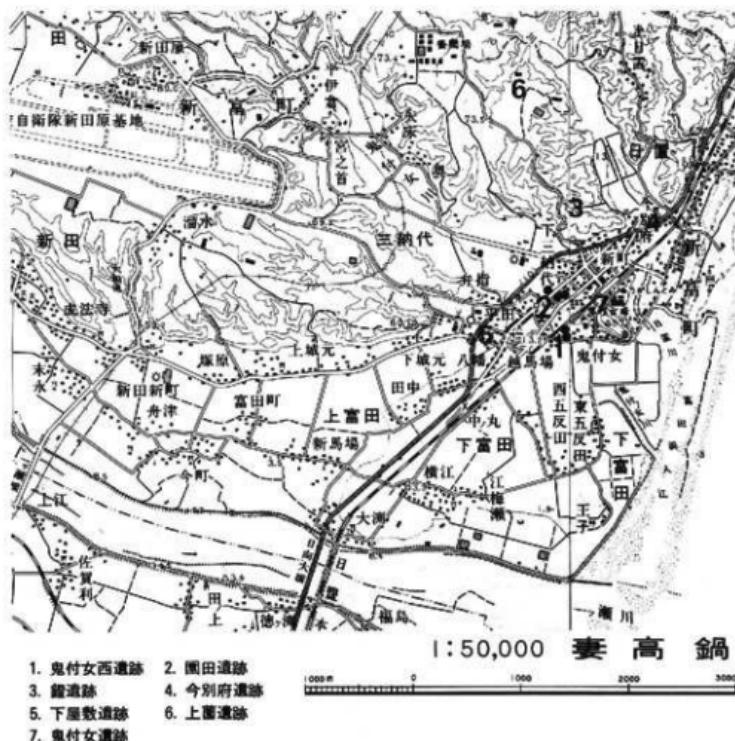
### A地区－2次調査－

図版1 鬼付女西遺跡A地区－2次－遺構	29
図版2 山土遺物	30

# 第 I 章 序 説

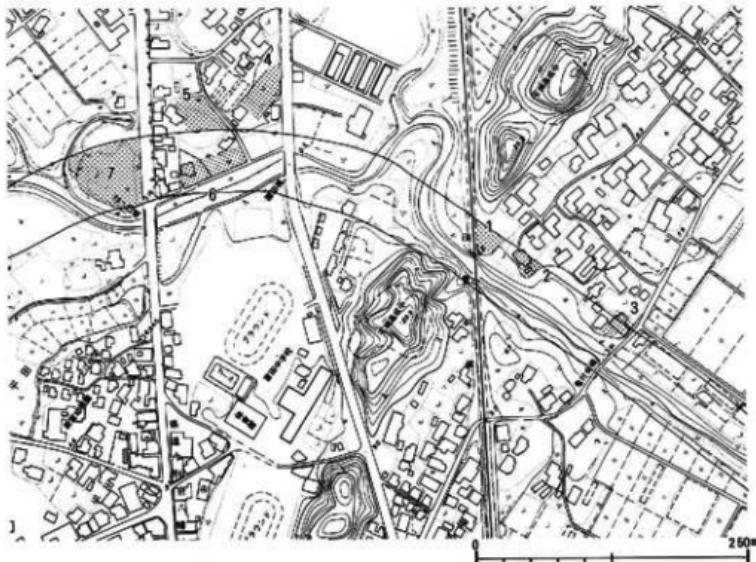
## 第 1 節 遺跡の位置と環境

鬼付女西遺跡は児湯郡新富町大字上富田字鬼付女に所在する。一つ瀬川と小丸川の 2 つの大河川に挟まれて形成された新田原台地から一つ瀬川入江に流れ込む小河川である鬼付女川左岸の沖積平野の砂丘上の微高地（第 4 砂丘？）に立地する。調査区は川沿いの標高 4～5 m、川の水面から約 3 m の所にある。



第 1 図 位置図

弥生時代の周辺の歴史的環境は、前期の板付式の壺を出土する今別府遺跡が鬼付女川の北を流れる日置川左岸の第4砂丘上に立地する。中期になると新田原台地の標高約60mの縁辺<sup>(1)</sup>上に立地する鏡遺跡がある。竪穴住居跡2軒やV字溝が確認されている。後期になると台地の西側の標高70~75mの縁辺上に新田原遺跡や七又木地区遺跡群などが所在する。新田原遺跡<sup>(2)</sup>では後期初頭の時期の花弁状住居跡を含む竪穴住居跡12軒と土壙4基が検出された。また、七又木地区遺跡群<sup>(3)</sup>では八幡上遺跡から花弁状住居跡も含めた8軒の後期初頭の竪穴住居跡群<sup>(4)</sup>が銀代ヶ迫遺跡から突出壁を持つ住居跡を含めて19軒の後期中葉の竪穴住居跡群がそれぞれ検出されている。<sup>(5)</sup>一方、沖積平野部においても、第4砂丘上の鬼付女西遺跡で後期初頭の竪穴住居跡2軒、さらに、園田遺跡からは後期後半の竪穴住居跡6軒が検出されるなど集落の立地が見られる。終末期の時期としては、鏡遺跡の西方の台地上に終末期から古墳時代後期にかけて延々と400基以上の集落が営まれた上轟遺跡が立地する。また、弥生時代の墓地と



1~3 鬼付女西遺跡 [1. A地区(1次) 2. A地区(2次) 3. B地区]  
4~7 園田遺跡 [4.5. A地区(町調査) 6. B地区 7. C地区]

第2図 地形図

しては、新田原台地の西北方の縁辺部に立地する川床遺跡がある。後期後半から古墳時代初期の時期の周溝墓21基を含む木棺墓・土塙墓など計195基が調査された。そして、古墳時代にはいると、前期の時期に比定される下屋敷1号墳が丘陵尾根を利用して造営される。中期になると台地上の西側に前方後円墳23基をもつ新田原古墳群が、また、東側に上塙遺跡を集落とする富田古墳群がそれぞれ造営される。

## 第2節 調査の経過

2級河川の鬼付女川は、複雑に蛇行する川幅の狭い小河川であるため、大雨の際には洪水の危険をいつまでもらんでいた。昭和58年夏の集中豪雨の際には、洪水のため新富町市街地が浸水の被害にあい大きな災害となった。そのため、昭和59年度から鬼付女川河川整備災害対策特別緊急事業に伴う治水のための河川改修工事が実施されることになった。

鬼付女川流域では昭和39年に鬼付女西遺跡の200m上流の園田橋の左岸地区で橋の架け替え工事中に弥生土器や石器が出<sup>(9)</sup>土（三納代遺跡）しており、周辺地域でも土器片が散布していることから流域には多くの遺跡の所在が確認されていた。県文化課では県河川課と遺跡の取り扱いについて協議を重ねてきた結果、鬼付女橋から国道10号線までの約1kmの工事区間について調査対象とした。発掘調査は昭和59年度から昭和61年度の3ヶ年にわたりておこなった。昭和59年度は鬼付女西遺跡の1次調査を同年10月11日から11月30日の間おこなった。当初はJR日豊線鉄橋の南側のA地区（調査区北側）から始め、家屋撤去後に同B地区の調査も合わせておこなった。さらに、家屋の撤去の遅れから調査ができなかったA地区的調査区南側について昭和60年3月12日から15日にかけて試掘調査をおこなった。昭和60年は鬼付女西遺跡A地区的調査区南側の本調査を昭和60年8月19日から9月9日の間実施した。さらに、園田遺跡の1次調査を昭和61年3月3日から25日の間おこなった。昭和61年度には園田遺跡の2次調査を昭和61年11月13日から62年1月30日の間実施した。なお、園田遺跡については新富町教育委員会が新富町の区画整理事業に伴う発掘調査を昭和59年から61年にかけて実施している。調査の詳細については表1のとおりである。

- 註 (1) 新富町教育委員会「新富町の埋蔵文化財」「遺跡詳細分布調査報告書」1982  
(2) 新富町教育委員会「館遺跡」「新富町文化財調査報告書第2集」1983  
(3) 新富町教育委員会「新田原遺跡」「新富町文化財調査報告書第4集」1986  
(4) 近藤協「七木本地区遺跡発掘調査の概要」「昭和63年度埋蔵文化財担当専門職員研修会発表資料」宮崎県教育委員会1988

- (5) 鬼付女川河川改修工事に伴い県教育委員会が昭和59年～61年にかけて発掘調査を実施した。  
 (6) 新富町教育委員会「上轟遺跡」「新富町文化財調査報告書第6集」1987  
 (7) 新富町教育委員会「川床地区遺跡」「新富町文化財調査報告書第5集」1985  
 (8) 新富町教育委員会「新富町・下巣敷1号墳発掘調査中間報告」「宮崎考古」第9号1984  
 (9) 石川恒太郎「宮崎県の考古学」1968

表 1. 鬼付女西遺跡および園田遺跡発掘調査一覧

地形図番号	遺跡名	所在地	発掘調査日	調査主体	調査員	造構・遺物	備考
4	園田遺跡 (A地区1次)	大字三納代2188 外8ヶ所	59. 7. 27	新富町教委	有田辰美	竪穴住居跡 弥生土器	町区画整理 事業に伴う
1 3	鬼付女西遺跡 (A地区1次) (B地区)	上富田字鬼付女 8758-1	59. 10. 11 59. 11. 30	県教委	永友良典 日高孝治 長津宗重	竪穴住居跡・周 溝状造構・弥生 土器・土師器・ 須恵器・陶器・ 磁器	河川改修事 業に伴う、 B地区～今 回報告分
2	鬼付女西遺跡 (A地区)	大字上富田 字鬼付女	60. 3. 12 60. 3. 15	県教委	永友良典	溝状造構 土師器・陶磁器	確認調査 河川改修事 業に伴う
4	園田遺跡 (A地区2次)	大字上富田 字園田	60. 7. 27 60. 8. 4	新富町教委	有田辰美	弥生住居跡 弥生土器・石器	町区画整理 事業に伴う
2	鬼付女西遺跡 (A地区2次)	大字上富田 字鬼付女	60. 8. 19 60. 9. 9	県教委	近藤協	溝状造構・木製 構・土師器 須恵器・陶磁器	河川改修事 業に伴う、 今回報告分
7	園田遺跡 (C地区1次)	大字三納代 字園田	61. 3. 3 61. 3. 25	県教委	近藤協	弥生土器 土師器	河川改修事 業に伴う
6 7	園田遺跡 (B地区) (C地区2次)	大字高田字園田	61. 11. 13 62. 1. 30	県教委	永友良典	竪穴住居跡 弥生土器・石器	河川改修事 業に伴う
5	園田遺跡 (A地区3次)	大字三納代 2188番地	61. 6. 21 61. 7. 20	新富町教委	有田辰美		町区画整理 事業に伴う

## 第Ⅱ章 鬼付女西遺跡B地区の調査

### 第1節 調査区の設定と概要

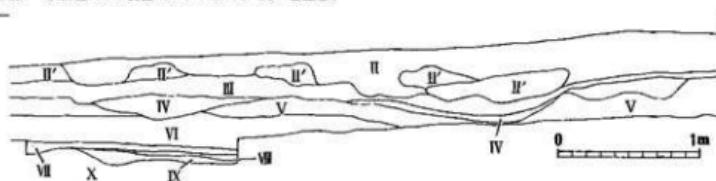
鬼付女西遺跡B地区（新富町大字上富田字鬼付女8758-1）は、宮崎市の北々東18kmを流れる鬼付女川の下流左岸の標高6mに位置する。

河川改修事業に伴って昭和59年10月11日～11月30日まで410m<sup>2</sup>の発掘調査が県教育委員会によって行われた。その結果、弥生時代後期の竪穴住居2軒・周溝状造構1基が検出され、弥生時代後期初頭の在地の土器と共に回線文の瀬戸内系の土器が出土した。また中世の掘立柱建物2棟が検出され、ヘラ切り底の土師器の壺が出土した（第4図）。

### 第2節 包含層の状態

当遺跡の基本層序は、I層が耕作土、II層が黄褐色砂質土（Hue 10YR 5/6）、III層が灰黄褐色土（10YR 6/2・2～3cmの大粒を含む層）、IV層が灰白色砂質土（10YR 10/1）、V層が褐灰色砂質土（10YR 5/1・基本的にはVI層と同質であるが、鉄分を多く含む）、VI層が褐灰色砂質土（10YR 5/1）、VII層が明赤褐色砂質土（2.5YR 5/8）、VIII層が暗赤褐色腐色土（10YR 3/2・炭化物によって形成されている）、IX層が褐灰色砂質土（10YR 5/1）、X層が灰白色シルト質土（7.5YR 7/2・基盤層）であり、遺構確認面はII層上面である（第3図）。

I層	耕作土
II層	黄褐色砂質土（Hue 10YR 5/6）
II'層	同質であるが、乱れており、鉄分等を多く含むため変色している。所によっては粘質土を含む所もある。
III層	灰黃褐色土（10YR 6/2） 2～3cmの大粒を含む。粘質土も含む。
IV層	灰白色砂質土（10YR 10/1）
V層	褐灰色砂質土（10YR 5/1） 基本的にはVI層と同質であるが、鉄分を多く含む。
VI層	褐灰色砂質土（10YR 5/1）
VII層	明赤褐色砂質土（2.5YR 5/8）
VIII層	暗赤褐色腐色土（10YR 3/2） 炭化物によって形成されている。
IX層	褐灰色砂質土（10YR 5/1） VII層と同じ。
X層	灰白色シルト質土（7.5YR 7/2） 基盤層。



第3図 第1トレンチ延長部北壁土層断面図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1. 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代後期の竪穴住居2軒・周溝状遺構1基が検出され、弥生後期初頭の土器が出土している。

##### (1) 竪穴住居(第5図)

2軒の住居の切り合いで、2号住居が1号住居を切っている。主軸は2軒とも東西方向である。

1号住居は、長さ440cm、幅365cm、深さ5cmの規模で、隅丸長方形プランである。上をかなり削平されており、柱穴は検出されなかった。弥生土器は東側で多く出土しており、直口する口縁部の下位に一条の刻目突帯を行する中型甕を主体としている。

2号住居は、長さ480cm、幅340cm、深さ15cmの規模で、楕円形プランである。1号住居よりよく残っており、柱穴は2本検出された。埋土の上層は黒褐色土層(Hue 7.5 YR 2/2)、下層は褐灰色土層(7.5 YR 6/1)である。弥生土器は北東部と北西部で出土しており、くの字口縁の下位に一条の刻目突帯を有する中型甕を主体とする。

##### (2) 周溝状遺構(第6図)

1号周溝状遺構は調査区の南西部に位置し、1・2号住居と2mの間隔である。主軸は北々西～南々西で、幅50cm、深さ25cmの溝を隅丸長方形に巡らせており、715cm×405cmの規模である。周溝の北側部分から高环・壺などが出土しているが、土器量は少ない。

#### ③ 弥生土器

##### 1. 弥生土器の形態分類

当遺跡の竪穴住居・周溝状遺構から出土した弥生土器は次のように分類される。

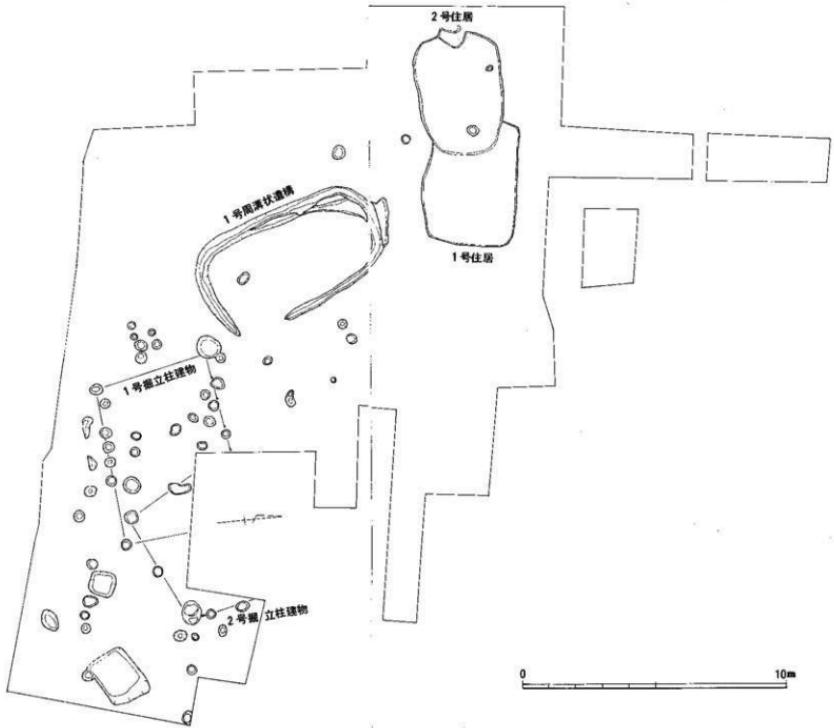
##### 甕

A-1類 直口する口縁部の下位に一条の刻目突帯を有する中型甕で、口唇部にも刻目を有する(第7図1)。

A-2類 直口する口縁部の下位に一条の刻目突帯を有する中型甕である(第7図2・第8図19)。

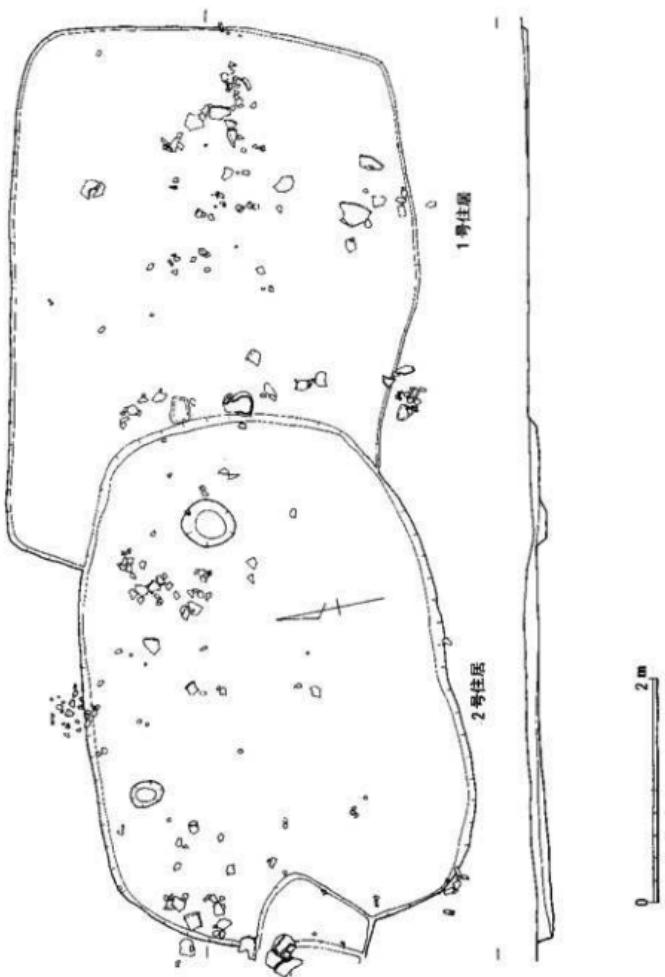
A-3類 直口する口縁部の下位に一条の突帯を行する中型甕である(第7図3)。

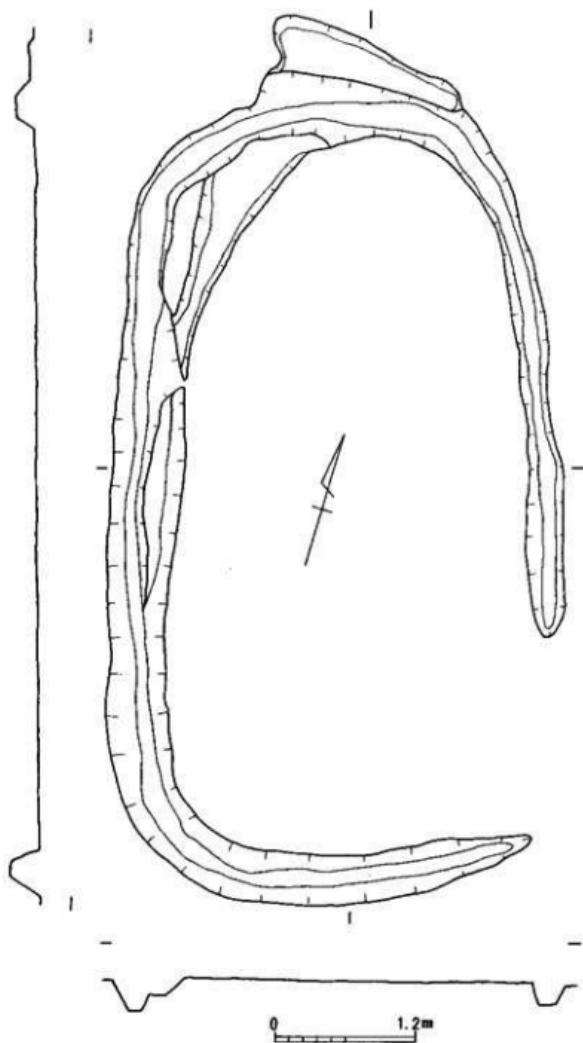
B-1類 くの字口縁の下位に一条の刻目突帯を有する中型甕である(第7図4・第8図



第4図 鬼村女西遺跡遺構分布図（縮尺1/150）

图 5 图 1・2 号住居測量図 (縮尺 1/50)





第6図 1号周溝状構造測図 (縮尺 1/50)

20~22)。

B-2類 くの字口縁で下位に一条の突帯を有する中型甕である(第9図23)。

B-3類 くの字口縁で下位に突帯を有しない中型甕である(第7図7・12・第8図24)。

### 甕

A類 脊部の最大径がやや上位にあり、そこに二条の突帯を有する(第8図14)。

B類 脊部の最大径が中位にあり、突帯を有しない(第8図15)。

C類 頸部が直立気味に伸び、口縁部がくの字に外反する。長甕である(第8図16)。

D類 脊部に梢円形の浮文を有する。

E類 頸部がすぼまり、口縁はくの字に外反する(第9図32)。

F類 鍋先口縁の名残りを有する(第9図28)。

G類 T字に肥厚した口縁部に三条の凹線が施される(第8図17)。

## 2. 歴史時代の遺構と遺物

### (1) 掘立柱建物

調査区の東南部で掘立柱建物が2棟検出された。

1号掘立柱建物は、2間×1間で、桁行が6.00m、梁行が4.30m、主軸方向はN5°Wである。2号掘立柱建物は、2間×1+α間で、梁行が4.40m、主軸方向がN25°Wである。

### (2) 土師器(第10図)

1・2は2号住居の雨から出土した。

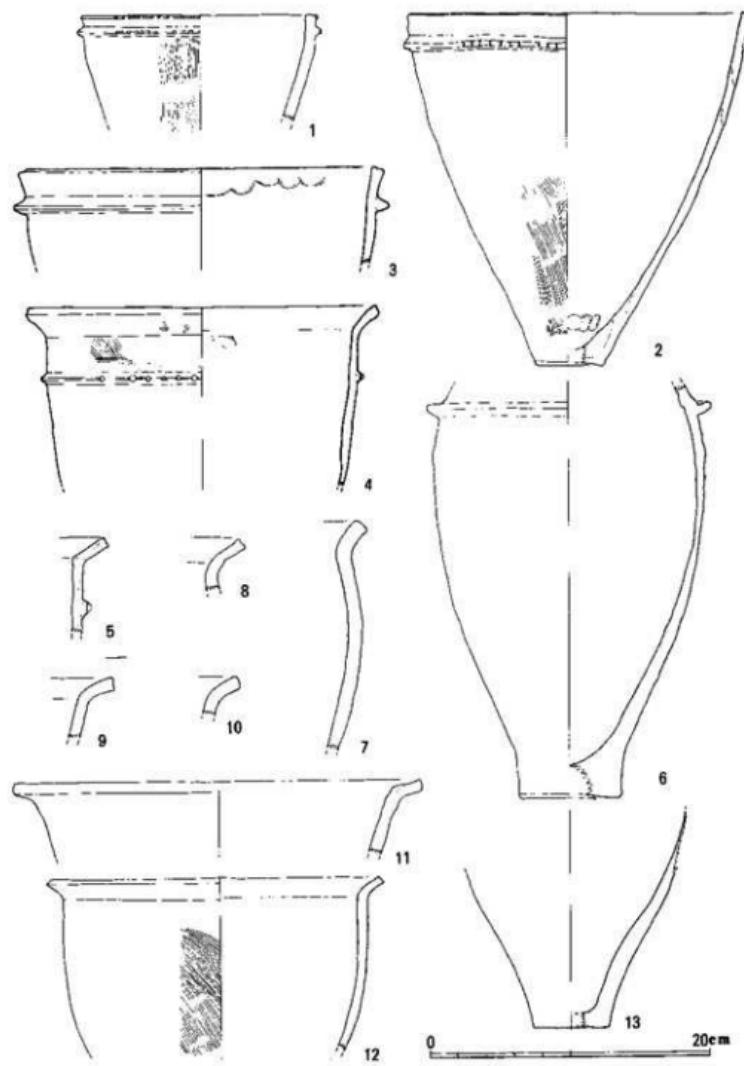
1は口径13.0cm、底径7.5cm、器高3.7cmのヘラ切りの壺で、体部は外側に直線的に広がり、体部と底部の境が甘い。内外面ともヨコナデである。

2は口径12.1cm、底径8.1cm、器高3.5cmのヘラ切りの壺で、体部は丸味をもってやや内湾気味に立ち上がり、体部と底部の境が甘い。内外面ともヨコナデである。

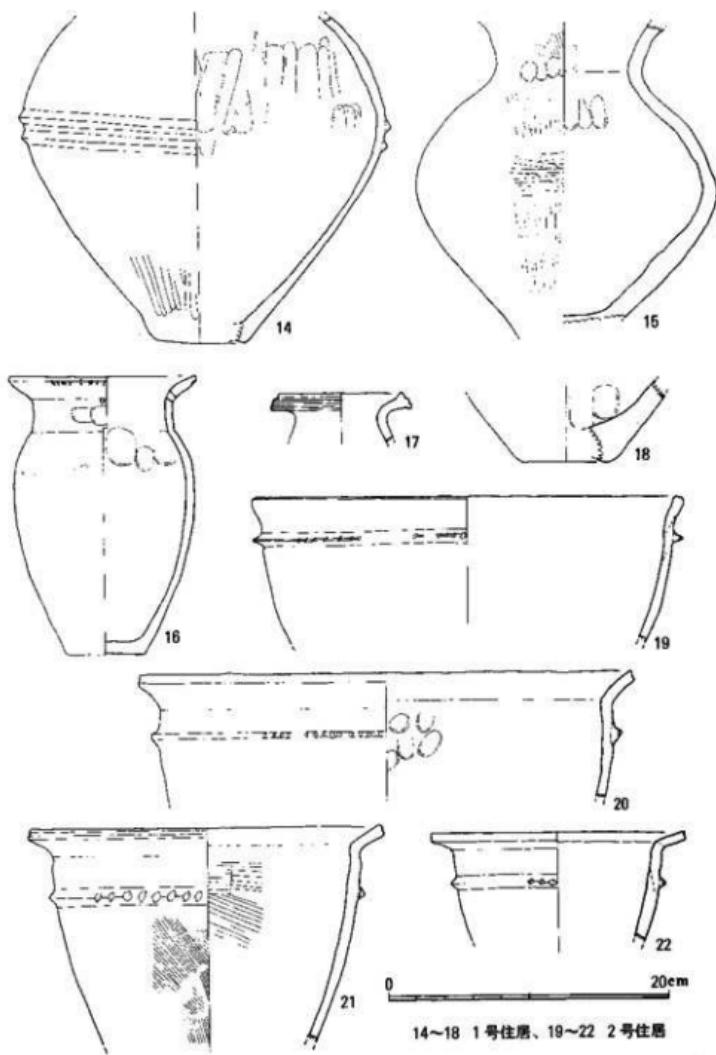
1は堂地東遺跡のI-A-2類に、2は同じくI-A-5類に相当し、ヘラ切りから糸切りへの転換期(13世紀~14世紀前半)直前である。<sup>(1)</sup>

### 註

(1) 日高孝治「堂地東遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985

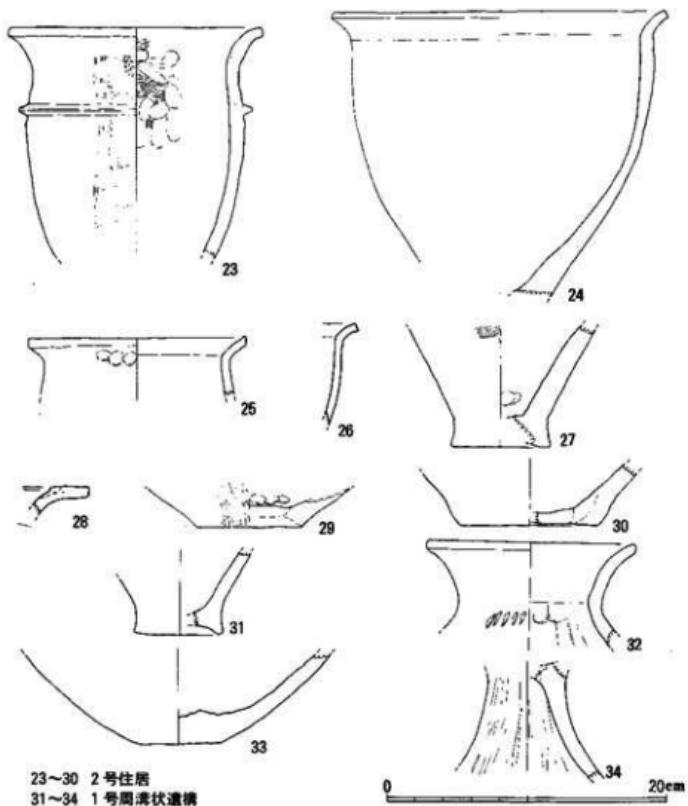


第7図 弥生土器実測図(1) (縮尺1/4) 1~13 1号住居

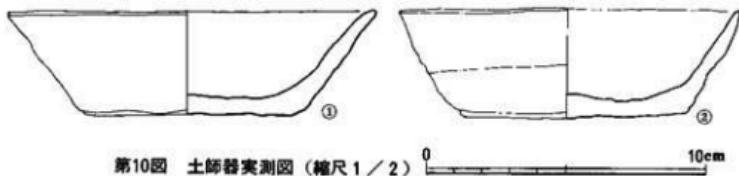


14~18 1号住居、19~22 2号住居

第8図 弥生土器実測図(II) (縮尺1/4)



第9図 弥生土器実測図(Ⅲ) (縮尺1/4)



第10図 土師器実測図 (縮尺1/2)

試験番号	試験名	通路名	通路番号	色		地盤		内面		外面		地 土	備 考	
				外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	内 面			
第7回SA1	1 穴	口縫合...ヨコナナデ	通路番号0のケル	口縫合...ヨコナナデ	内面	良好	白(7.5YR 8/1)	にぶい緑(7.5YR 8/1)	白(7.5YR 8/1)	白・灰・光る雲母片を含む	外面	口縫合...ヨコナナデ	良好	
第7回SA1	2 穴	口縫合...ヨコナナデ	通路番号1のケル	口縫合...ヨコナナデ	内面	良好	白(7.5YR 6/4)	にぶい緑(7.5YR 6/4)	白(7.5YR 6/4)	2-2mmの灰・ツサ基の質を含む	外面	口縫合...ヨコナナデ	良好	
第7回SA1	3 穴	口縫合...ヨコナナデ	通路番号2のケル	口縫合...ヨコナナデ	内面	良好	白(7.5YR 7/3)	にぶい緑(7.5YR 7/3)	白(7.5YR 7/3)	2-3mmの灰・ツサ基の質を含む	外面	口縫合...ヨコナナデ	良好	
第7回SA1	4 穴	口縫合...ヨコナナデ	通路番号3のケル	口縫合...ヨコナナデ	内面	良好	白(7.5YR 5/1)	白(7.5YR 4/1)	白(7.5YR 5/1)	1mmの大粒を多く含む	外面	口縫合...ヨコナナデ	良好	
第7回SA1	5 穴	口縫合...ヨコナナデ	通路番号4のケル	口縫合...ヨコナナデ	内面	良好	白(7.5YR 7/3)	にぶい緑(7.5YR 7/3)	白(7.5YR 7/3)	1mmの粒を多く含む	外面	口縫合...ヨコナナデ	良好	
第7回SA1	6 穴	横...通路...ヨコナナデ	通路番号5のケル	横...通路...ヨコナナデ	内面	良好	白(7.5YR 7/8)	白(7.5YR 7/8)	白(7.5YR 7/8)	1mmの大粒を多く含む	外面	横...通路...ヨコナナデ	良好	
第7回SA1	7 穴	横...通路...ヨコナナデ	通路番号6のケル	横...通路...ヨコナナデ	内面	良好	白(2.5Y 8/-)	白(2.5Y 7/2)	白(2.5Y 8/-)	1mmの粒を多く含む	外面	横...通路...ヨコナナデ	良好	
第7回SA1	8 穴	口縫合...ヨコナナデ	通路番号7のケル	口縫合...ヨコナナデ	内面	良好	白(7.5YR 4/4)	白(7.5YR 8/3)	白(7.5YR 4/4)	白(7.5YR 8/3)	1mmの大粒を多く含む	外面	口縫合...ヨコナナデ	良好
第7回SA1	9 穴	口縫合...ヨコナナデ	通路番号8のケル	口縫合...ヨコナナデ	内面	良好	白(2.5Y 8/-)	にぶい緑(7.5YR 7/4)	白(2.5Y 8/-)	1mmの粒を多く含む	外面	口縫合...ヨコナナデ	良好	
第7回SA1	10 穴	横...通路...ヨコナナデ	通路番号9のケル	横...通路...ヨコナナデ	内面	良好	白(7.5YR 7/3)	にぶい緑(7.5YR 7/3)	白(7.5YR 7/3)	1mmの粒を多く含む	外面	横...通路...ヨコナナデ	良好	
第7回SA1	11 穴	口縫合...ヨコナナデ	通路番号10のケル	口縫合...ヨコナナデ	内面	良好	白(7.5YR 8/1)	白(7.5YR 8/1)	白(7.5YR 8/1)	1-2mmの灰・うす赤の粒を含む	外面	口縫合...ヨコナナデ	良好	
第7回SA1	12 穴	口縫合...ヨコナナデ	通路番号11のケル	口縫合...ヨコナナデ	内面	良好	白(5YR 6/6)	にぶい緑(5YR 6/4)	白(5YR 6/6)	1-2mmの灰・黒・光る石英の粒を含む	外面	口縫合...ヨコナナデ	良好	
第7回SA1	13 穴	横...通路...ヨコナナデ	通路番号12のケル	横...通路...ヨコナナデ	内面	良好	白(5YR 6/1)	にぶい緑(5YR 6/1)	白(5YR 6/1)	1mmの粒を多く含む	外面	横...通路...ヨコナナデ	良好	
第8回SA1	14 穴	横...ヨコナナデ	通路番号13のケル	横...ヨコナナデ	内面	良好	白(5YR 6/4)	にぶい緑(5YR 6/4)	白(5YR 6/4)	1-2.5mmの白褐色の粒、外縁 刺繍...ヨコナナデ	外縁 刺繡...ヨコナナデ	横...ヨコナナデ	良好	
第8回SA1	15 穴	横...ヨコナナデ	通路番号14のケル	横...ヨコナナデ	内面	良好	白(5YR 7/4)	にぶい緑(5YR 6/4)	白(5YR 7/4)	1mmの粒を多く含む	外縁 刺繡...ヨコナナデ	横...ヨコナナデ	良好	
第8回SA1	16 穴	横...ヨコナナデ	通路番号15のケル	横...ヨコナナデ	内面	良好	白(2.5Y 6/2)	白(2.5Y 7/3)	白(2.5Y 6/2)	1mmの大粒を多く含む	外縁 刺繡...ヨコナナデ	横...ヨコナナデ	良好	
第8回SA1	17 穴	口縫合...ヨコナナデ	通路番号16のケル	口縫合...ヨコナナデ	内面	良好	白(7.5YR 5/4)	白(7.5YR 5/4)	白(7.5YR 5/4)	1mmの粒を多く含む	外縁 刺繡...ヨコナナデ	横...ヨコナナデ	良好	

表2. 弥生土器觀察表(1)(SA1…1号住居, SA2…2号住居, SL1…1号周溝状遺構)

表3. 弥生土器觀察表(II)(SA1…1号住居, SA2…2号住居, SL1…1号周溝状造構)

#### 第4節 まとめ

鬼付女西遺跡B地区は弥生時代後期の遺跡であるが、その後は中世の時期に営まれている。弥生後期初頭の堅穴住居が2軒であり、集落の全容を把握するまでには至っていない。

県内で弥生時代後期前半の集落で発掘調査されたのは、新富町の新田原遺跡(12軒)、宮崎市の堂地東遺跡(19軒)<sup>(1)</sup>だけ、すべて日向型間仕切り住居を主体とする集落であり、集落の様相が未だ不明な所が多い。堅穴住居の面積は1号住居が16.1m<sup>2</sup>、2号住居が16.3m<sup>2</sup>であり、口向型間仕切り住居を除くと当時期の方形プランの堅穴住居としては標準的な規模である。柱穴はあまり検出されなかったので主柱穴が4本柱か2本柱かは不明である。

周溝状遺跡は県内では日向市の吉町原地区遺跡1基、都農町の新別府下原遺跡3基、川南町の野稻尾遺跡2基、新富町の鬼付女西遺跡B地区1基、宮崎市の熊野原遺跡A地区1基・熊野原遺跡C地区1基、都城市の年見川遺跡1基が発掘調査されており、野稻尾遺跡の後期初頭を上限として熊野原遺跡C地区の布留式(古段階)を下限としている。プランは熊野原遺跡A地区1号周溝状遺構の盾形を除くと、隅丸方形で一辺5mの規模が標準的であるが、熊野原遺跡A地区の1号周溝状遺構の700×600cmが最大規模である。周溝状遺構は集落内及び近接して営まれており、集落を構成する要素である。周溝の北側や東側から土器が集中して出土する点、熊野原遺跡C地区では周溝内の焼土の存在などから集落共同体で行われる『祭祀』の可能性が指摘されるが、その具体的な内容は不明である。

直口する口縁部の下位に一条の刻目突帯を有する中型甕を主体とする1号住居が、くの字口縁の下位に一条の刻目突帯を有する中型甕を主体とする2号住居に切られていたことは、土器の編年に一致していると共に、瀬戸内系の凹線土器がそれに伴うことは後期初頭の土器群の様相をより明確にした。1号周溝状遺構は頸部に線刻した壺・高杯から後期後葉の時期であり、後期初頭の住居と明らかな時期差が存在する。このことは他の遺跡での住居と周溝状遺構の在りかたからすれば調査区外に同時期の住居の存在が推定される。

今回の調査は面積が狭かったために弥生時代後期の集落の全容を把握するまでに至らなかつたが、土器編年の上で大きな成果があった。

#### 註

(1) 石川悦雄 「新田原遺跡」『新富町文化財調査報告書』第4集 1986

(2) 長津宗重 「堂地東遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985

- (3) 長津宗重 「日向型間仕切り住居研究序説」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985
- (4) 著方博文 「百町原地区遺跡発掘調査概要報告」『昭和63年度埋蔵文化財担当専門職員研修会発表資料』 1989
- (5) 長津宗重 「新別府下原遺跡発掘調査概要報告」『昭和63年度埋蔵文化財担当専門職員研修会発表資料』 1989
- (6) 近藤 協 「野福尾遺跡概要報告」『宮崎考古学会例会発表要旨』 1987
- (7) 菅付和樹 「熊野原遺跡A地区」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第4集 1988
- (8) 面高哲郎 「熊野原遺跡C地区」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第4集 1988
- (9) 宮崎県立博物館 「因説宮崎の歴史」 1967  
石川恒太郎 『宮崎県の考古学』 1968



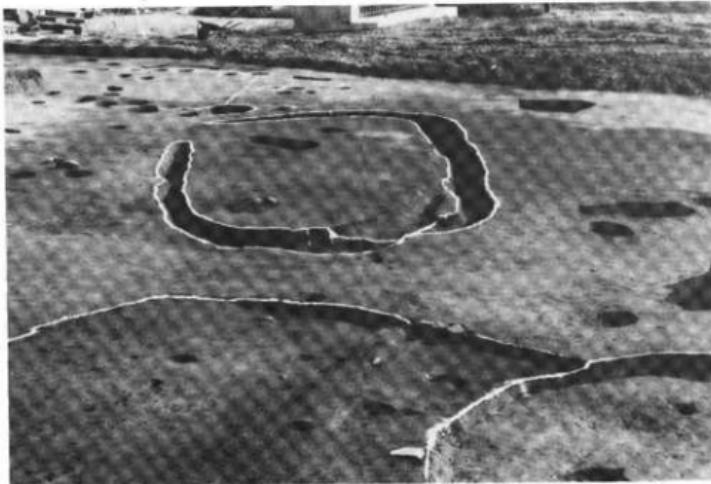
鬼付女西遺跡Ⅱ地区全景（北から）



1・2号住居



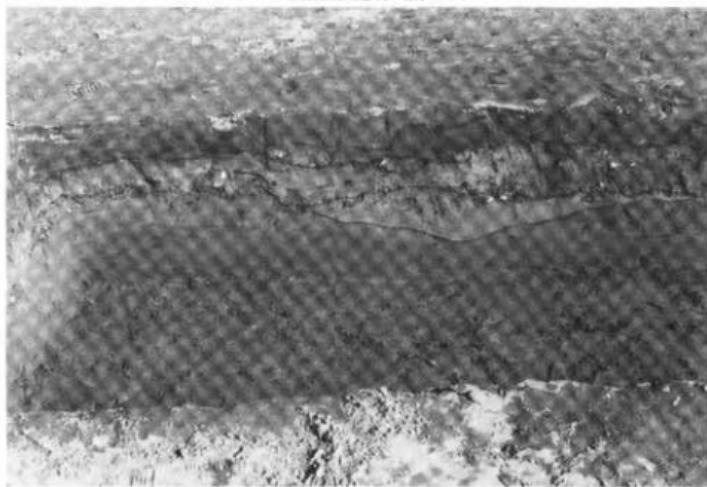
1号住居土器出土状況



1号周溝状遺構（北から）



1号掘立柱建物（南から）



トレンチ土層断面

### 第Ⅲ章 鬼付女西遺跡A地区 — 二次調査 —

#### 第1節 調査区と周辺の地勢

調査区は鬼付女川河口より約1.2km離れた左岸にある。鬼付女峰からは西へ500mたらずの地点にあって、標高は約7mである。調査区の南100mには、町道越馬場～野中線が通じ、北は鬼付女川にかかるJR日豊線の小鉄橋がある。調査は昭和59年度調査にひき続いておこなったもので、河川改修とともに移転した倉永氏の宅地内をその対象とした。調査期間は昭和60年8月19日より同年9月9日まで実施した。

鬼付女川は、宮崎県のほぼ中央を流れる一ツ瀬川の河口から北約2kmにあって、新富町新田地区付近の洪積台地に源を発し新富町の中心部を貫いて東流し一ツ瀬川が形成したラグーンに注ぐ全長15kmの小河川である。鬼付女川の北800mには同じように一ツ瀬川ラグーンに注ぐ日置川がある。鬼付女川、日置川が形成した沖積地には孤島のように立地する鬼付女峰（標高57m）があり、近世には佐土原藩によって高鍋藩領を監視するための遠見番所が設けられたといわれる。



第1図 鬼付女西（A区）  
遺跡発掘区・遺構図（縮尺1/300）

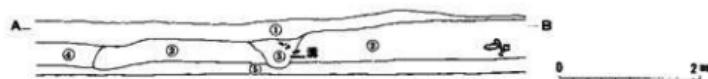
## 第2節 遺構

検出された遺構は、断面U字形を呈し幅120cmをもって屈曲しながら縦横に走る溝状遺構と鬼付女川に向って延びている断面U形の木製埋構である。

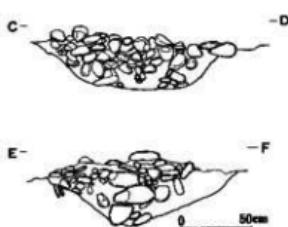
### 木 構 (第5図)

発掘区の南端にあって、構は東から西に向って13.2mにわたって延びる。構は東にお延びるものと考えられるが、調査区となり家屋の下に埋まっている。構は長さ1.9m、幅0.45mを一組として調査区内で6組+αが確認された。一組が側板、底板および2枚の底板を留める板材からなる木構は、全長1.9mで、側板は一枚板からなるもので厚さ約1.8cm、高さ(幅)約15cmの値があり、底板とは1.8~2.1cm間隔で打たれた平頭釘によって留められている。二板の幅の異なる板材によって組まれる底板(幅17cmおよび幅23cmの二枚)は全幅約41cmあって、その裏側三ヶ所を長さ46cm、幅9cmの板材によって中央と両端部を二対の平頭釘で留めている。底板の両端部は斜に切り落されて、予め連結を考慮されている。

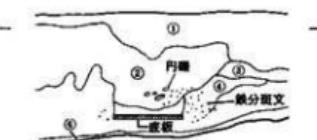
表土下約60cmの褐色から暗褐色の砂混りの粘質土中に埋まっていた木構は、両側板の遺存が最も不良な状態で、側板の高さが辛うじて判別できる程度に板目の硬質部分が所々に残る。



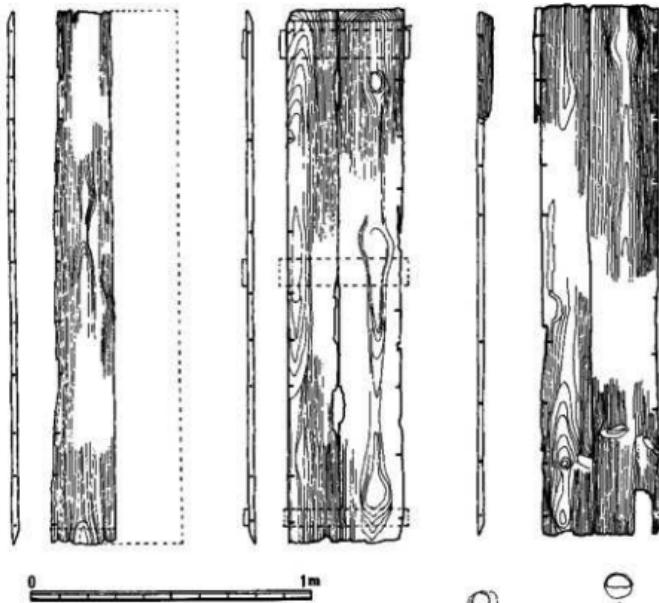
第2図 鬼付女西遺跡A地区土層断面図  
(A-B) (縮尺1/80)  
 ① 單褐色土(礫を含む)  
 ② 明褐色土(多量の丸礫を含む)  
 ③ 單褐色土(基本的に砂質であるが、粘質土を含む)  
 ④ 明灰色砂土  
 ⑤ 黄色砂土(小丸礫を多く含む)



第3図 溝状遺構断面図  
(C-D)、(E-F) (縮尺1/40)



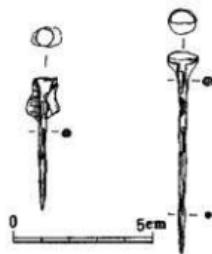
第4図 木構断面セクション  
(縮尺1/40)  
 ① 褐色砂土…帯状・ブロック状に褐色粘質土が混る複合層である。  
 ② 單褐色砂土…①にくらべや粘質で小丸礫が混る。  
 ③ 明褐色砂土…粒子、やや粗い。  
 ④ 黄色砂土…粒子、やや粗い。該分のオレンジ色斑をみる。  
 ⑤ 單褐色砂土…粒子、やや粗い。  
 ⑥ 黄灰色粘質土



第5図 木桶(底板)実測図(縮尺1/20)

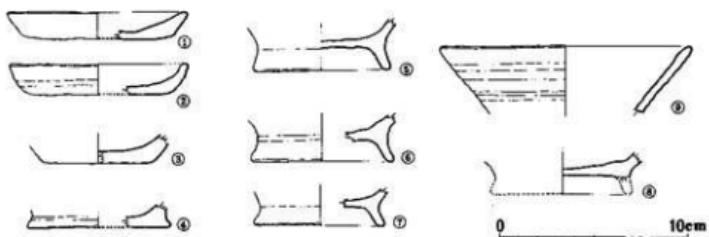


第6図 木桶復元図(一組)



第7図 鉄釘(木桶側板)  
(縮尺1/2)

らいの遺存状態である。これにくらべて底板の遺存状況は良好であり、一組の全長、全幅および連結状況も計測、把握できる程度の良さである。これは、調査区付近の地下水位が高く、木桶の埋没する高さまで地下水が常時循環するような環境下にあったことが遺存良好であった主因であり、原材として側板、底板とともに松材が使用されたこともその一因であると考えられる。



第8図 土師器（皿・碗・高台付塊）実測図（縮尺1／3）

### 第3節 遺 物

表土剥ぎ中、素焼きの塊、皿、碗類の小片が出土している。完形に復元できるもののがなく、図上で推定復元できたものが数点ある。

#### 土師皿（第8図1、2）

1は推定口径9.5cm、底径8.0cm、器高1.5cmを測る。底は風化著しく、底部切はなしは不明である。2は推定口径9.3cm、底径7.6cm、器高1.5cmを測り、1よりややゆるく緩かに立ち上がる。底部切はなしは回転ヘラ切りとなる。胎土はそれぞれ精選されており、細かいが焼きは軟調である。

#### 土師碗（第8図3、4）

3、4は土師器の碗であろう。3は全体に風化磨耗している。推定口径6.0cmを測る。4は底部を高台状に成形し、外面をヨコナデする。推定底径7.6cmを測る。

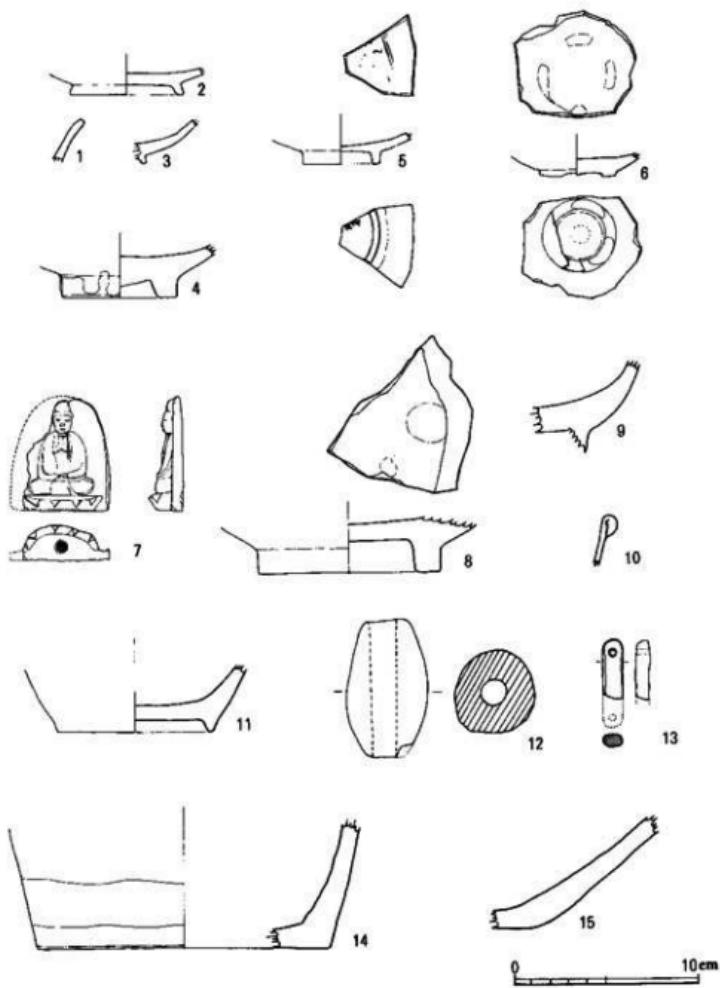
#### 高台付塊（第8図5、6、7、8）

5～8は高台付塊の底部、9は口縁部付近である。5～8は底部をやや広げて安定した形状をもつ。底部径の法量はやや小型の7が6.8cmの他は7.2～7.6cmとほぼ一定値を示す。いずれも色調は橙色をしている。

#### 独尊佛（第9図7）

発掘区の中央付近、手掘りによる表土剥ぎ中の出土である。蓮台上に座した如来像を浮き彫りにしている。形造り成形によるもので底部中央に径7.0mmの孔が穿たれている。全形は光背を模したもので、左側半分を欠く。残存長6.3cm、残存幅4.5cm、最大厚（蓮台部）1.9cmを測る。

胎土は比較的精選されており細かく均一である。明黄橙色を呈している。



第9図 鬼付女（A区）遺跡出土遺物実測図（縮尺1/3）

### 土 鍋 (第9図12、13)

上鍋は二点出土しているが、いずれも遺構とともにあっての出土ではない。12は上鍋としては大型に属するもので、長さ7.3cm、幅4.4cmを測り、堅敏に焼かれている。表面の調整はナデ調整、胎土は細かな砂粒の他、サンドパイプを含んでいる。13は両端に小孔を穿つ上鍋であるが、一端を欠く。小孔は径3.8mmほど、残存長3.2cm、幅1.1cm、厚さ0.65cmを測る。胎土は細かく、砂粒をみないが、焼きは軟潤である。

10. 17世紀～19世紀前半の関西系片口鉢口縁片口縁端部は外側に折りかえされて玉縁口縁となる。白化粧のあと施釉する。枯草色に発色している。

8. 17世紀。唐津大皿底部片。高台内外はナデ調整のあと露胎、白化粧、砂胎七日あとがみられる。胎土に長石粒が混入する。推定底径9.8cm。

### 白磁皿 (第9図6)

6は15世紀の白磁小皿。見込部に4ヶ所の目痕を残す。高台は低い切高台となる。高台内外、露胎で、高台脇まで乳白色釉が施釉される。

### 瓦質土器 (第9図11)

11は外面暗灰色、内面灰色を呈する瓦質の土器で底部は高台様につくる。推定底径8.4cm。

### 備前 (壺、擂鉢) (第9図14、15)

14は推定口径15.8cmの壺で、外面はヨコ方向の幅広いヘラ削り痕、内面には凹凸あるヨコナデ痕をみる。15は内面に7条の凹線を施す擂鉢片。胎土に6mm人の小石と長石を多く含んでいる。

### 染付皿 (第9図5)

5は埋没していた木製桶中より出土したもので、其須で山水を描いた皿である。釉は乳白色をしていて高台脇までかかり、高台、高台内は露胎となる。高台内に「柴」の印を細く精緻に刻している。底径4.2cm(推定)。胎土は白色で精良。17世紀後半のものである。

### 青磁碗 (第9図9)

9は15世紀～16世紀前半とみられる龍泉窯系の碗。見込に印花文がある。釉は青緑色に発色し、厚く(1mm近い)高台外まで施釉される。高台内は露胎となる。大き目の貫入が著しい。

### 綠釉皿 (第9図1、2、3)

1～3 1は口縁部片で口縁ちかくてゆるく外反する。口唇部付近では薄くかけられた綠釉がほとんど剥げている。2は皿の底部である。高台は外側に反し、高さも低い。高台内

外すべてに緑釉が施され、骨付にも薄くかけられている。釉は深い緑色を呈して底径 6.2 cm (推定) を測る。3は2と同じ器形を呈するものと考えられるが内に低い段がある。わずかに残る高台内は露胎となる。全体に釉が剥げて一部緑色が残っている程度である。

#### 陶磁器 (第9図4、8、10)

4は高取系の火入類と考えられる。高台外下端は面取され、高台内は削られて兜巾を形成する。青灰色釉が高台外まで厚くなっている。骨付、高台内、見込は露胎となる。胎土に細かな長石粒が多く混入している。底径 5.7 cm である。17世紀のものである。

### 第4節 まとめ

本遺跡では、近世の所産とおもわれる溝状遺構、および木製樋を主な遺構として検出した。

その他、遺物では、表土中より高台付塙、緑釉陶器、青磁、櫻鉢、国産陶器等の10世紀前半から18世紀にかけての遺物が出土している。当地区は鬼附女川河床にむかって落ちる緩傾斜地にあって、これらの遺物はさらに北側高位面に想定される古代～中近世遺跡からの流れ込みであろうと推定される。

木樋の出土はこれまで類例のないものであるが、木樋底板面出土の染付皿、および埴仏により18世紀を上限とする時期を想定することができる。溝状遺構との時期差は溝が木樋を避けるようにカーブを描くことから、木樋よりやや新しい時期があてられる。木樋はU形で蓋がなく、断面口のいわゆる箱樋でもないことから、導水管として機能する埋樋ではなく、地上施設となる、寛(懸樋)としての機能を想定でき北側高位にある近世遺構に付随する施設と考えられる。

### 参考文献

- ・坂詰秀一 「江戸、特集『現代都市と都市遺跡』」『古代学研究』69 1973年
- ・「加賀 長巳用水」—長巳ダム関係文化財等調査報告書— 昭和58年

図版 1



遺跡全景



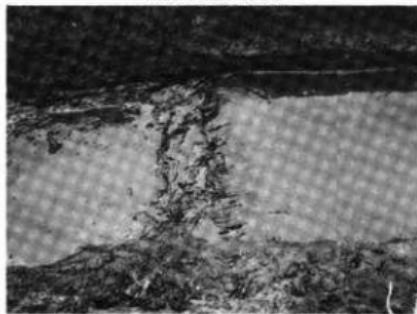
木桶全景



溝状遺構と木桶



溝状遺構断面



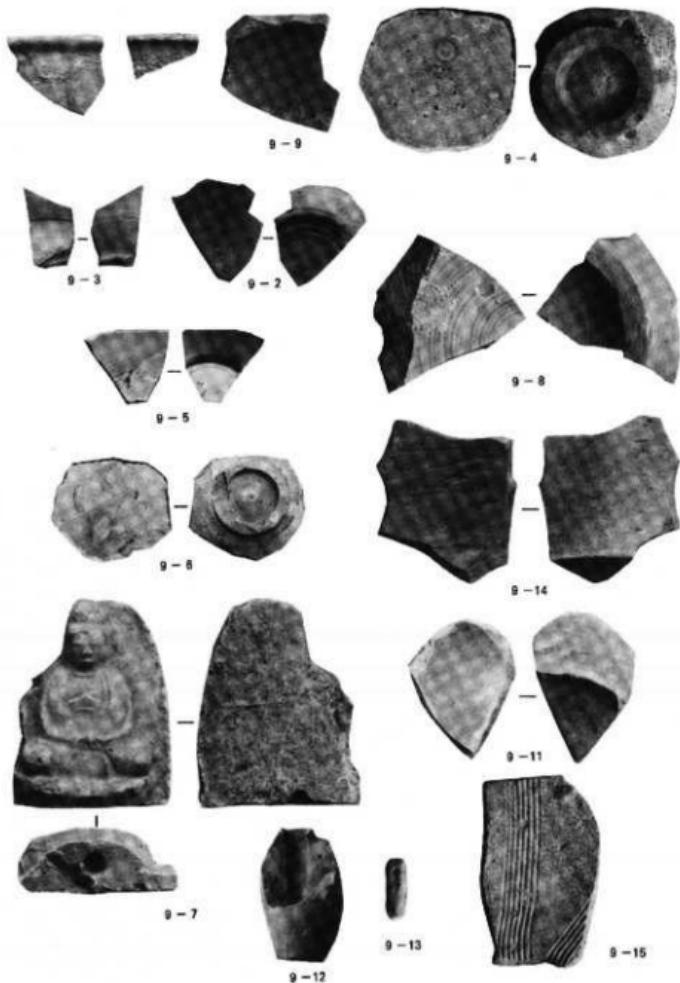
木桶端部



木桶の継ぎ目部

鬼付女（A区）遺跡遺構図

図版2



鬼付女（A区）遺跡出土遺物

## 第 IV 章 鬼付女西遺跡A地区出土板材の樹種について

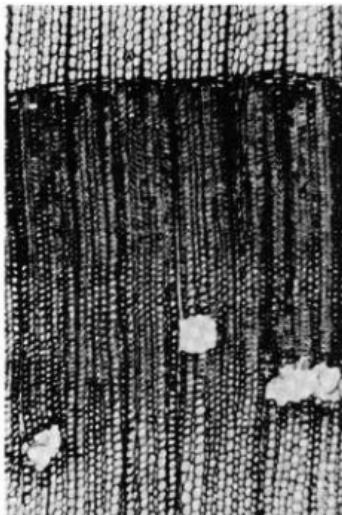
大 塚 誠

宮崎県新富町鬼付女西遺跡から、厚さ約2.5cmの柾目板材が出土したので樹種の識別を行った。なお、この板材は鉄製の丸釘によって打ち付けられていた。

樹種識別の結果、2個体とも「針葉樹 マツ属（二葉松）」と判断する。

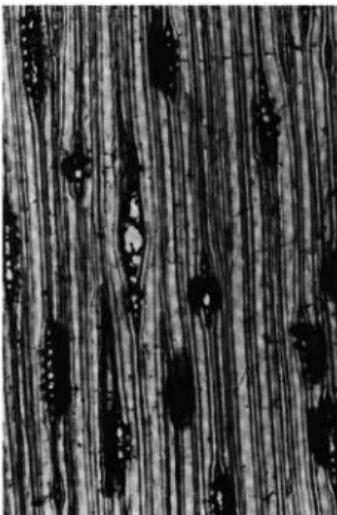
樹種：マツ科（二葉松） Pinaceae

横 断 面



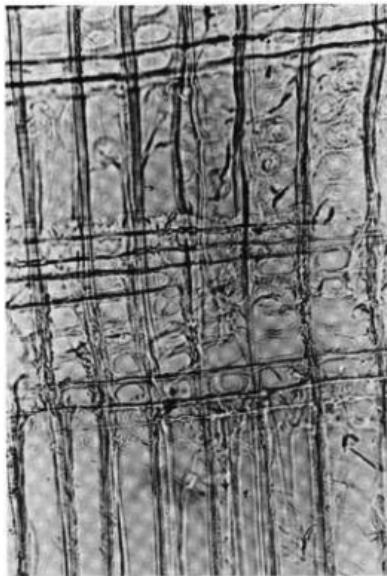
軸方向樹脂道

接 線 断 面



水平方向樹脂道

半径断面



分野壁孔は窓型  
放射板道管の壁は鋸歯状に肥厚  
ら旋肥厚は存在しない

出土した板材



TEN ZIN KAWACHI

天神河内第1遺跡

SASA GA ZYO

篠ヶ城 遺跡

## 例　　言

1. 宮崎県教育委員会では、昭和63年度発  
掘調査として、杉木掲載の一覧表のとお  
りの調査を実施した。

これは、そのうちの2遺跡について、  
その概要を掲載するものである。

2. それぞれの遺跡の調査期日・調査担当・  
執筆者については各頭の例言に記してい  
る。

## 天神河内第1遺跡発掘調査概要

### —国営天神ダム建設に伴う発掘調査—

所 在 地 宮崎県宮崎郡田野町字天神河内

遺跡周辺は、東岳や雪が峰など800m級の山々が反り立つ険しい地形を呈し、東岳東麓を源とする境川は急峻な山合いを縫うように大きく蛇行しながら北流し大淀川に注いでいる。川の両側には開拓された小さな河岸段丘がいくつか形成され、天神遺跡は、その内の一つ境川の右岸、標高約283mの河岸段丘上に営まれている。

遺跡の基本層序は、I層からX層に分かれ、第一文化層：II層及びIV（ボラ）層に掘り込まれた遺構（中世）、第二文化層：V層（縄文時代前期）、第三文化層：VI層（縄文時代早期）の三つの文化層が確認されている。

天神遺跡周辺の通称「青井岳」地区は、山が険しく「天神嶺」とも呼ばれ、中世においてはここに島津氏と伊東氏の境界があり、東を山東（伊東氏領）、西を山西（島津氏領）とされていた。また、遺跡の対岸の丘陵には番所跡も知られることから、中世の遺構・遺物はそれに付随した集落と想定される。また、近くの丘陵斜面には、五輪塔の空風輪や火輪が散逸しており、既に廃された「寺」が埋没してしまっていると考えられる。

縄文時代前期・早期の遺構・遺物は、今回の調査では同じ田野町前平地区遺跡群ほど密な状態では検出されていない。それは、第VI層は漆黒で、層中に粘土膜なども観察でき、当時湿地帯を呈していたと考えられることや、第VI層（アカホヤ）中においても、砂がレンズ状に堆積し二次堆積のアカホヤも認められ、長い間、山から流れ落ちる水の通り道あるいは溜り場であったと想定される。そういう理由で今回の発掘区は、生活の場としてはあまり適していたとはいえない。逆に、第二次調査地区はその部分の縁辺にあたり比較的良好な遺構・遺物が検出される可能性を秘めている。



遺跡遠景



掘立柱建物検出状況

## 篠ヶ城遺跡

### —広域農道建設工事に伴う発掘調査概略—

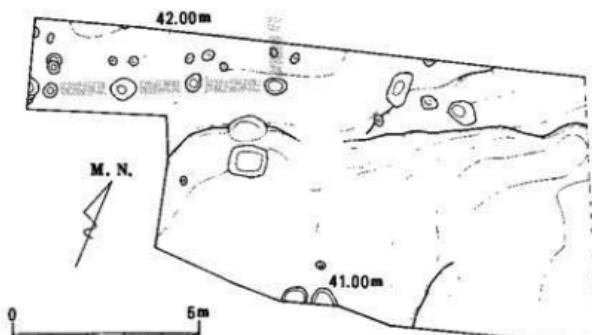
所在地 日南市大字吉野方字篠ヶ城

日南市祇肥地区は、島津・伊東の両氏による、永年にわたる攻防の舞台として知られる。その祇肥の一角に所在する本遺跡は、字名から1568（永禄11）年に伊東義祐が陣を構えたことで知られる「篠ヶ嶺」に比定される地であり、祇肥城から直線距離で約1.3kmの酒谷川の左岸の小丘陵上に立地する。

調査は影響の及ぶ、約800m<sup>2</sup>の範囲を対象に行なった。表土のⅠ層、中世の遺物包含層であるⅡ層を掘り下げた後、Ⅲ層の二次堆積アカホヤ層で遺構を検出した。

検出された遺構の中で注目されるのは、地山を掘削して、階段状に平坦面を造り出しているもので、調査範囲内の最上段の平坦面には、掘立柱建物跡の可能性があるビット群が存在した。また、平坦面の端部に並ぶ、柵列と考えられるビット列もあり、Ⅱ層出土の各種陶磁器の年代が14～17世紀に収まることから、それらの遺構は「篠ヶ嶺」存在当時のものと推定され、腰曲輪的な機能が考えられる。

また、Ⅳ層以下の深掘りの結果、縄文時代早期の貝殻文円筒形土器群や押型文土器の小片が出土した。



篠ヶ城遺跡A～D区遺構分布図（縮尺1/150）

## 昭和62・63年度 埼玉県埋蔵文化財発掘調査一覧

(平成元年3月現在)

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
1	笠下遺跡	北方町大字 笠下 神ノ下 塩田	62.12.9 1 63.10.31	北方町 教委	小野信彦	ナイフ形石器、細石刃、縄文土器、壺石造構、壁穴住居、掘立柱建物、土師器、祭祀遺構、五輪塔群、石碑、磨石、溝状遺構、陶器等	ゴルフ場建設
2	立切地下式 横穴墓群	高原町大字 後川内	63.4.4 1 4.26	高原町 教委	長津宗重 近藤義吉 谷口武範 本正典	地下式横穴墓 鉄鏡、鉄劍、刀子、施錫先、貝輪	2次調査は場整備
3	犬神河内 第一遺跡	田野町犬神 河内乙	63.4.6 1 4.13	田野町 教委	近藤 協	焼罐・溝 縄文土器	試掘 ダム建設
4	向原遺跡	都城市 三股町	63.4.21 1 4.30	都城市 教委	矢部喜多夫	土器・石窓門	試掘
5	七野地区 遺跡 (長轍道路)	田野町長轍 乙4622 外 七野	63.5.11 1 平成5 元年1.31	田野町 教委	森田浩史	土壤・散石、縄文土器 石鎚・石皿、環状石斧 旧石器	は場整備
6	西川内地区	日向市大字 富高字西川 内	63.5.12 1 5.14	日向市 教委	近藤 協	遺構・遺物なし	試掘 広域農道
7	吾平原 第1遺跡	高千穂町大 字三田井字 吾平原	63.5.9 1 7.15	高千穂町 教委	北郷泰道	打製石鎚、縄文土器 磨製石鎚・弥生土器	高千穂 バイパス建設
8	都城跡	都城市都島 町803	63.5.16 1 8.16	都城市 教委	桑畑光博	通路跡・掘立柱建物 地錨・鎖壇構造 土壤・土師器・陶磁器 鐵製品・砥石・石臼	歴史資料館建設
9	寺村地区 辺跡	日南市大字 大庭字前畑	63.5.16 1 5.18	日南市 教委	永友良典	縄文土器 青磁器 洪武通宝	試掘 広域農道
10	竹之下遺跡	宮崎市大塚 町竹之下	63.5.24 1 9.3	宮崎市 教委	長津宗重	壁穴住居・近世墓・弥生土器・土師器・須恵器・砥石・青磁・銅錢	都市計画 街路 生日通 線
11	藏田地区 跡	北方町藏田	63.5.27	北方町 教委	山高哲郎	遺構・遺物なし	試掘 北方バイパス

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
12	地蔵ヶ森遺跡	延岡市小峰町字後田	63. 5. 30 1 9. 9	県教委	谷口武範	竪穴住居・集石遺構・土師器・繩文土器・石鏃・打製石斧・石點・ナイフ形石器・石核・三棱尖頭器・石錐	広城農道
13	西町原地区遺跡	日向市美々津町字上百町原	63. 5. 30 1 12. 23	日向市教育委	緒方博文	竪穴住居・方形周溝状遺構・集石遺構・繩文土器・土師器・旧石器	日場整備
14	上尾筋遺跡	西都市大字三宅子尾筋東上2698-1	63. 5. 30 1 6. 8	西都市教育委	日高正晴	土溝・溝状遺構・弥生土器・土師器・陶器・瓦・铁劍・铁鎌	試掘個人住宅
15	志和池古墳1号墳	都城市下水流町2554	63. 5. 31 1 6. 4	都城市教育委	矢部喜多夫	周溝（？）須恵器	試掘
16	角上原地区遺跡 (田代側塚1基跡 上ノ原塚跡)	清武町大字今泉字上ノ原乙227外	63. 6. 6 1 8. 27 6.14-15	清武町教育委	伊東但	掘立柱建物跡・竪穴式住居跡・溝状遺構・土壙・陶磁器・土師器・繩文土器・石鏃・打製石斧・磨石他	試掘日場整備
17	七又本地区遺跡	新富町大字新田字七又木	63. 6. 1 1 6. 6 6. 28	県教委	近藤協	繩文土器・弥生土器・溝状遺構・住居跡	試掘日場整備
18	久玉遺跡	都城市郡元町3060他16筆	63. 6. 3 1 11. 15	都城市	矢部喜多夫	大溝・道路・掘立柱建物・井戸・土壤層	土地區画整理
19	篠ヶ城遺跡	日南市大字古野方字篠ヶ城	63. 6. 6 1 7. 23	県教委	吉本正典	腰曲輪遺構・柱穴群・土壙・陶磁器・鐵鎌・古錢・繩文土器	広城農道
20	都南地区遺跡	都農町大字川北	63. 6. 7 1 6. 13	県教委	近藤協	弥生土器・打製石鏃・陶磁器・土鍤	試掘日場整備
21	角上原遺跡	清武町大字今泉字上ノ原乙227外	63. 6. 14 1 6. 16	県教委	近藤協	柱穴・溝状遺構・弥生土器・削片	試掘日場整備
22	木場城跡	高崎町大字繩瀬字中尾4956-1	63. 6. 16 1 6. 17	高崎町教育委 県教委	面高哲郎	貝殻条痕文土器・集石	試掘駐車場

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
23	串木遺跡	西都市大字 穂北字串木 927 外	63.12.12 12.15	西都市 教委	日高正晴	遺構・遺物なし	道路幅
24	永田原遺跡	えびの市大 字今西 外	63. 7. 4 7. 5	えびの 市教委	面高哲郎	遺構等は残存していない	試掘 市道改良
25	片田遺跡	延岡市片田 町65 外	63. 7.11 7.15	延岡市 教委	面高哲郎	剝片(旧石器?)	試掘 地区 面整理
26	兵勃寺遺跡	西都市大字 荒武字都於 郡 170番地 外	63. 7.18 8.25	西都市 教委	賀方政機	绳文土器・弥生土器 土師器・陶磁器・銅製品 古錢・人骨・貝殻・土壤 溝状遺構	民間 土採取
27	松ヶ迫B 遺跡	川南町大字 川南字松ヶ迫 14405-4 外	63. 7.18 8. 5	県教委	岩永哲夫	円形周溝状遺構 弥生土器	県道改 良 整備
28	北原牧地区 遺跡 (新富字遺跡) (上原第3地割)	新富町大字 日置字上園 ・東牧 外	63. 7.25 平成 3 元年 1.31	新富町 教委	有田辰美	集石遺構・堅穴住居・繩文土器 石器・磨石 ○古墳時代・堅穴住居 酒器類・土師器・熟練的針 ○奈良・平安時代 ○奈良・平安時代 ○奈良・平安時代 ○堅穴住居・上原村・境	住場整 備 61.62. 63越後
29	車坂・山下 地区遺跡	宮崎市大字 熊野8122番 地 外	63. 7.25 9.30	宮崎市 教委	野間重孝	溝状遺構・集石 弥生土器・石器 青磁・白磁	確認 地区 面整理
30	桜尾敷跡 遺跡	高崎町大字 前田340-5	63. 7.26 8.17	県教委	北郷泰道	掘立柱建物跡 陶磁器・銅錢・弥生土器 绳文土器・土師器 土壤・井戸	谷川公 民館建 設
31	諏訪遺跡	西都市大字 右松2330番 地	63. 8. 1 8. 5	県教委	面高哲郎	古墳周溝(211.21号墳) 陶磁器・繩文土器	試掘
32	七又木地区 遺跡 (八幡上 七又木 原代ヶ遺)	新富町大字 新田字七又 木 外	63. 8. 9 平成 3 元年 2.10	町教委	近藤 協	集石遺構・堅穴住居・掘立柱 建物・土壇・埴溝器・繩文土器 ・弥生土器・土師器・磨製 石器・磨製石斧・磨製石劍 ・土製勾玉	住場整 備
33	奈留地区 遺跡 (留尾 留ヶ字戸)	串間市大字 奈留字留ヶ 戸 762 外	63. 7.26 10.20	串間市 教委	吉本正典	集石遺構・土壤・溝状遺構 繩文土器・土師器・陶磁器 石器・石皿・磨石・凹石・打 製石斧・旧石器・剝片石器	住場整 備

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
34	小木原遺跡 <small>(久見沼 地上部)</small>	えびの市大字上江2260外	63. 8. 9 平成1元年 1. 31	えびの市教委	中野和浩	地下式横穴墓、土塙盛、掘立柱建物、溝、溜池、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、輪人頭追跡、銅鏡、铁刀、铁劍、铁鎌、等	は場整備
35	大岩田村ノ前遺跡	都城市大岩田町5449他6筆	63. 8. 1 8. 5	都城市教委	矢部喜多夫	土器片・青磁	試掘火葬場建設
36	貴船寺跡 遺跡 <small>(尾崎第1)</small>	都城市梅北町1423-3 1424、1425-6	63. 8. 8 10. 4	都城市教委	来畠光博	陶磁器・石器 古錢、人骨	市営住宅建設
37	天神河内第1遺跡 河内乙	田野町天神平成1元年 3. 10	63. 8. 9	県教委	谷口武範	掘立柱建物 柱穴 縄文土器	ダム建設
38	縣城跡遺跡	日南市大字戸高字野添	63. 8. 16 8. 23	日南市教委	面高哲郎	空堀	市営墓地造成
39	八重地区遺跡	田野町字蘆現谷乙1139-16外 八重	63. 8. 29	田野町教委	森田浩史	住居址、土壤 縄文土器 弥生土器 石鐵	は場整備
40	新別府下原遺跡	都農町大字北宇新別府下原1983-1外	63. 9. 1 平成1元年 1. 31	都農町教委	長岸宗重	堅穴住居・土壤 周溝状造構・溝 縄文土器・弥生土器 石包丁・砥石・石斧	は場整備
41	広渡地区遺跡	北郷町大字北河内字広渡5193外	63. 9. 5 10. 29	県教委	面高哲郎	縄文土器・刺片	広域農道
42	大岩田村ノ前遺跡	都城市大岩田町5449他6筆	63. 11. 10 12. 8	都城市教委	重永卓爾	縄文堅穴遺構 溝状遺構・陶器	火葬場建設
43	鶴目原遺跡	西都市大字三納字鶴目外	63. 10. 7 11. 30	西都市教委	義方政幾	溝状遺構・集石遺構・柱穴・堅穴住居・縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・青磁・白磁・打製石斧・石錐	配水池 道路拡幅
44	海蔵寺遺跡	高崎町大字前田2730	63. 11. 7 平成1元年 1. 27	県教委	北郷泰道	縄文土器 弥生土器 土師器 陶器	前田バ イバス (221号)

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
45	花見地区遺跡 (橋川第1~3番跡)	高岡町大字花見字橋山外	63.11.14 11.16	高岡町教委	面高哲郎	五輪塔 繩文土器 石鏡	試掘 企業団地予定
46	蔵田地区遺跡	北方町字辰641卯之谷外	63.12.5 12.27	北方町教委	小野信彦	繩文土器片 石鏡 集石遺構・上築器片	農地保全整備
47	南町遺跡	門川町大字門川尾末	63.12.5 平成1 元年3.31	門川町教委	荒武麗子	土壤・住居跡 繩文土器・弥生土器 石鏡・黒曜石削片 土錐・石鏡	土地区画整理
48	大戸ノ口遺跡	高岡町大字上江字大戸ノ口7808-4外	63.12.5 12.20	高岡町教委	永友良典	集石遺構・繩文土器 石錐・磨石・土師器	試掘
49	金剛寺原遺跡	宮崎市大字山田生野字金剛寺原5247外	63.12.20 平成1 元年2.28	宮崎市教委	野間重孝	焼罐群 旧石器	農免農道
50	酒元遺跡	西都市大字三宅字山王前畑4044-1外	63.11.16 平成1 元年1.30	西都市教委	賀方政幾	住居址・土塙・溝状遺構 柱穴・繩文土器・土師器 須恵器・陶磁器	市都市計画街路
51	堂山遺跡	都城市丸谷町2351-1	63.10.20 平成1 元年3.30	都城市教委	栗畠光博 矢部喜多夫	須恵器・土師器	工業団地造成
52	上講遺跡	日南市大字星倉字上講5065	63.11.8 11.10	日南市教委	永友良典	繩文土器・弥生土器 土師器・陶磁器	
53	松原第五遺跡	都城市郡元町3114-1外	63.11.16 12.12	都城市教委	矢部喜多夫	獨立柱建物・溝状遺構 土師器・輸入陶磁器	土地区画整理
54	船ヶ山地区合子ヶ谷遺跡	出野町字合子ヶ谷甲6760船ヶ山外	63.12.5 12.23	田野町教委	森田浩史	土壤 平安時代土器(布痕有り)	民間レジャー施設
55	原田上江遺跡	えびの市大字上江	63.12.12 12.16	県教委	面高哲郎	溝状遺構・柱穴 繩文土器・土師器	試掘は場整備

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
56	出ノ山地区遺跡	小林市大字 細野	63.12.19 3 12.24	県教委	面高哲郎	弥生土器	試掘 は場整備
57	林遺跡	延岡市伊形町	平成1.9 元年 3 2.10	県教委	岩永哲太 北郷泰道	旧石器 陶磁器	土々呂 バイバ ス建設
58	池田原遺跡	日向市大字 富高	平成1.23 元年 3 1.27	日向市 教委	緒方博文	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器・石錐 石錐他	試掘 ゴルフ 場
59	善田地区遺跡	中間市大字 西方	平成1.24 元年 3 1.27	県教委	面高哲郎 吉本正典	柱穴	試掘 広域農道
60	奈留地区遺跡	串間市大字 奈留	平成1.24 元年 3	県教委	面高哲郎 吉本正典	焼窯・縄文土器	試掘 は場整備
61	諫訪遺跡	西都市大字 右松2330	平成1.26 元年 3 2.8	県教委	永友良典 石川悦雄	土師器・須恵器・瓦 布紋土器・陶磁器	試掘 国衙・郡衙分 布調査
62	鬼付女遺跡	新富町大字 三納代41 外	平成2.6 元年 3 2.17	県教委	近藤協	土師器・植物遺体	試掘 河川改修
63	祇園原地区遺跡	新富町大字 新田字曲久 保外	平成2.14 元年 3 2.24	県教委	面高哲郎 近藤協	円筒埴輪・磨製石斧 須恵器・鉄錐・弥生土器	試掘 は場整備
64	天ヶ谷遺跡	野尻町大字 東麗5160 外	平成2.16 元年 3 3.31	野尻町 教委	岩永哲郎 吉本正典	集石遺構 縄文土器・石錐	多目的 広場
65	西河原地区遺跡	新富町大字 新田	平成2.20 元年 3 2.24	県教委	北郷泰道	柱穴・土師皿	試掘 は場整備
66	平松遺跡	小林市大字 細野	平成1.10 元年 3 1.14	県教委	面高哲郎	溝状遺構・七璜 弥生土器	

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
67	佐土原城址	佐土原町 大字上沼島	平成 元年 2.7 3.22	佐土原 町教委	木村明史	堀、礎石建物 陶磁器、瓦	

昭和63年発行 宮崎県市町村教育委員会発行埋蔵文化財調査報告書一覧

番号	書名	遺跡名(ふりがな)	時代	種類	発行機関
1	宮崎県文化財調査報告書 第31集	丸山(まるやま)遺跡 大淀(おおよど)3号古墳 椎原宮(くじらのみや) 遺跡 多宝寺(たほうじ)遺跡 地藏ヶ森(じぞうがもり) 遺跡	縄文 古 弥生・中世 古 縄文	集石遺構 古墳 集落 古墳 集落 集石遺構	宮崎県教委
2	昭和52年度農業基盤整備事業 に伴う遺跡調査概要報告書	北原牧(きたはらまき) 地区遺跡 七野(ひちの)地区遺跡 百町原(ひゃくちょうばる) 地区遺跡 小木原(おぎばる)地下式 横穴群 角上原(つのかんばる) 地区遺跡 金剛寺原(こんごうじばる) 遺跡 七又木(ななまたぎ)地区 遺跡 苦田(ぜんだ)地区遺跡	古 旧石器・縄文 古墳 古墳・中世 古 縄文 古 縄文 古 縄文	古墳 旧石器・縄文 古墳 古墳・中世 古 縄文 古 縄文 古 縄文	宮崎県教委
3	一般国道10号土呂バイパス 建設関係発掘調査概要報告書 林遺跡	林(はやし)遺跡	旧石器・古墳 ・中世・近世	集落	宮崎県教委
4	県道日置~南高麗線道路改良 事業にともなう埋蔵文化財調 査報告書 水谷原遺跡	水谷原(みずやばる)遺跡	縄文・弥生	集石遺構	宮崎県教委
5	一般国道10号宮崎西バイパス 事業に伴う発掘調査報告書 西ノ原遺跡・大淀1号古墳一	西ノ原(にしひのる)遺跡 一大淀(おおよど)1号 古墳一	古	古墳	宮崎県教委

番号	書名	遺跡名(ふりがな)	時代	種類	発行機関
6	宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書 第4集	熊野原(くまのはる) A・B遺跡 前原西(まえぱるにし)遺跡 陣ノ内(じんのうち)遺跡 前原南(まえぱるみなみ)遺跡 前原北(まえぱるきた)遺跡 今江城(いまえじょう) (仮称)跡 車坂城西ノ城(くるまざかじょうにしのじろ)跡	弥生～中世	集落山城地	宮崎県教委
7	西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第5集 都於郡本丸跡	都於郡(とのこおり)城址	中世	城跡	西都市教委
8	西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集 昭和62年度三納地区県宮園場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 松本遺跡	松本(まつもと)遺跡	古墳	古墳	西都市教委
9	市道中別府・坂元線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	金ヶ浜(かねがはま)遺跡	绳文	集石造構	日向市教委
10	漆野原駅営場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 紙屋城址遺跡	紙屋城址(かみやじょうし)遺跡	弥生・中世	中世山城	野尻町教委
11	新富町文化財調査報告書 第7集 県営農業基盤総合バイロット事業(尾鈴二期地区)に伴う埋蔵文化財調査概要報告書	越園(くらぞの)遺跡 上巣(うえぞの)遺跡 東牧(ひがしまき)遺跡	弥生古	集落古墳	新富町教委
12	高崎町文化財調査報告書 第1集 原村上地下式横穴墓群 高崎町出土の古墳時代人骨	原村上(はらむらうえ)遺跡	古墳	地下式古墳	高崎町教委
13	田野町文化財調査報告書 第5集 県営農地保全整備事業七野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書	丸野第2(まるの第2)遺跡	绳文	集落	田野町教委

#### 埋蔵文化財関係図書

- ・西都原古墳研究所年報 第5号 昭63.3.31 西都市教育委員会
- ・埋蔵文化財調査研究報告Ⅱ 下那珂貝塚 昭63.3 宮崎県総合博物館

宮崎県文化財調査報告書

第32集

平成元年3月

発行 宮崎県教育委員会

編集 宮崎県教育庁文化課